

令和 6 年度事業報告

1 管理運営事業 (館報 P.6-「Ⅲ 令和 6 年度予算・決算」P.7-「Ⅳ 観覧者及び施設利用の状況」)

※括弧内は対前年度増減率

(1) 決算

現年分

・歳出	413,846 千円	前年度比	172,662 千円増	(71.59%)
・歳入	158,632 千円	前年度比	137,014 千円増	(633.8%)

※令和 6 年度は大規模設備更新があったため、歳出、歳入共に前年度に比して大幅に増額した。

繰越明許費 (令和 5 年度から繰り越したもの)

・歳出	2,200 千円
・歳入	2,926 千円

※令和 6 年能登半島地震により被害を受けた、本館の内外壁ひび割れ補修を行ったもの。

歳出の主な項目

【博物館事業】

・特別展「たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～」の開催	5,835 千円
・SSP展「自然を楽しむ科学の眼2024-2025」の開催	81 千円
[展示更新計画]	
・第 1 期「サイエンス・ラボ」の整備	19,679 千円

【施設・展示設備等の更新・修繕】

施設・展示設備等の維持管理のため必要な修繕等を実施した。

・屋上防水工事	52,481 千円
・非常用発電機の更新	61,270 千円
・地下外部建具の更新	2,703 千円
・館内照明のLED化	8,910 千円

(2) 入館者数

114,568 人	前年度比	15,307 人減	(▲11.79%)
-----------	------	-----------	-----------

(3) カップル無料の日

毎週土曜日に高校生以上のカップルで来館すると入館料を無料とする事業

8,644 人	前年度比	2,633 人減	(▲23.35%)
---------	------	----------	-----------

(4) 高校生等の無料化

高校生以下の入館料を無料とする事業 (平成29年4月から通年無料)

46,976 人	前年度比	6,178 人減	(▲11.62%)
----------	------	----------	-----------

※うち高校生数

1,515 人	前年度比	62 人減	(▲3.93%)
---------	------	-------	----------

(5) 孫とおでかけ支援事業

祖父母とお孫さんが一緒に来館すると入館料を無料とする事業

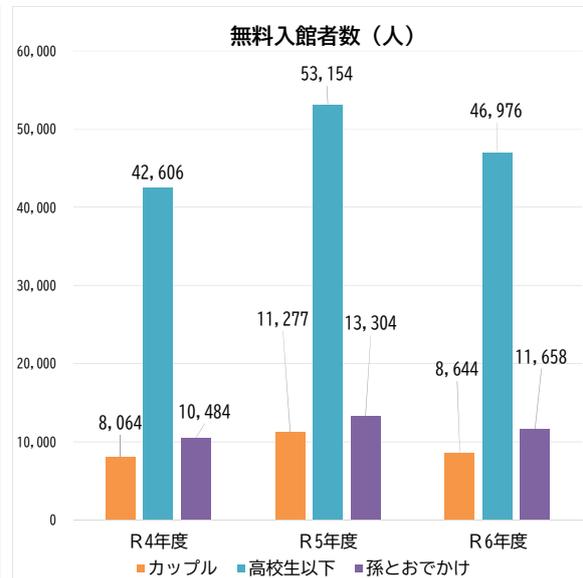
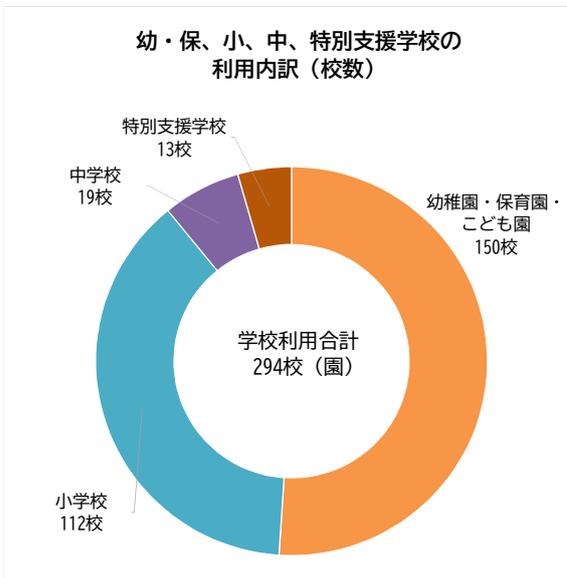
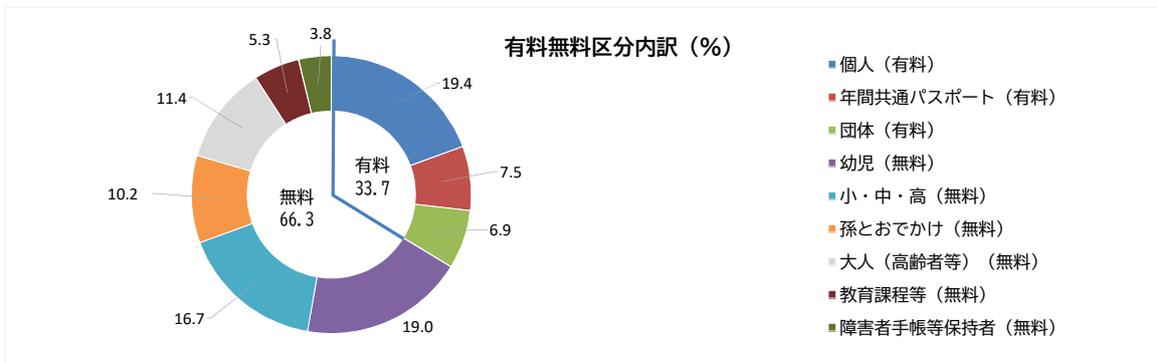
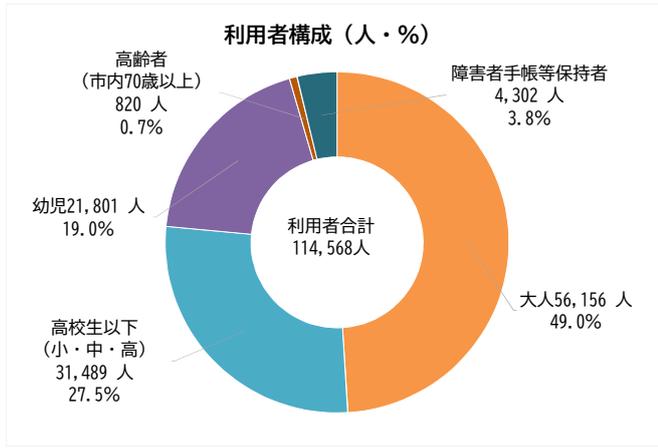
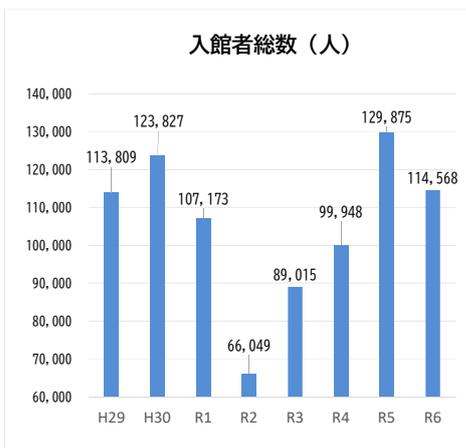
対象自治体：富山県内15市町村すべて

対象者：県内在住の祖父母、孫・ひ孫は居住地制限無し

※令和6年能登半島地震の影響により、県内の市町村へ避難している祖父母も対象に加えた。

祖父母	5,344人	孫・ひ孫	6,314人	計	11,658人
		前年度比	1,646人減		(▲12.37%)

令和6年度観覧者の状況



2 調査研究事業（館報 P.10-）

分野別研究・博物館学的研究

研究報告第48号の発行、学術論文・学会などでの発表、読み物執筆。
研究発表会を3月に開催。

3 展示事業（館報 P.15-）

特別展を1回、企画展を8回、ロビー展を11回開催。

主な展示会

- ・特別展「たのしむ重力 ～落ちる ひっばる そして、曲げられる♪～」
重力について「落体の法則」「万有引力の法則」「一般相対性理論」の3つの視点から、「振り子スネーク」など体験型展示10点、展示品6点などを通して紹介。
期間：令和6年7月20日(土)～9月1日(日)
観覧者数：20,852人
- ・企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」
身近な自然や現象の中にあるたくさんの不思議を「くらべてみよう！」や「かいてみよう！」などの体験により発見できるようにした展示。
期間：令和6年10月26日(土)～12月8日(日)
- ・企画展「日本星景写真協会写真展一星の風景 2025—」
富山をはじめ、世界各地において星空と風景を一体として写し取り、星空を見上げたときの感動を表現した美しい写真の展示。
期間：令和7年3月15日(土)～5月18日(日)
- ・ロビー展「能登半島地震 あの日、私たちの周りで起きたこと」
「能登半島地震 被害調査プロジェクト」の報告展として開催。来館者から寄せられた各地の被害状況などをまとめ、パネルとGoogleマイマップで紹介。
期間：令和6年12月14日(土)～令和7年1月19日(日)

4 資料収集事業（館報 P.18-）

標本収集	令和6年度増加数	16,236点
	総収蔵標本数	533,326点
	標本データ件数（データ化率）	366,983件（68.8%）

標本・資料の活用

企画展やイベントでの利用 標本のべ1,512点 標本写真のべ494点
 主な標本の貸出 3件（黒部川花崗岩、流星刀、平天儀図解）
 外部研究者の標本閲覧 15件（26回）

5 普及教育事業（館報 P.23-）

(1) 行事

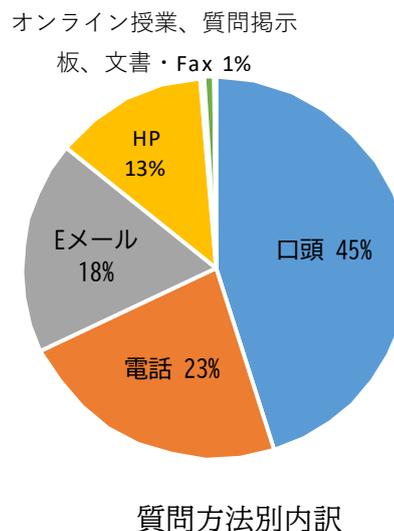
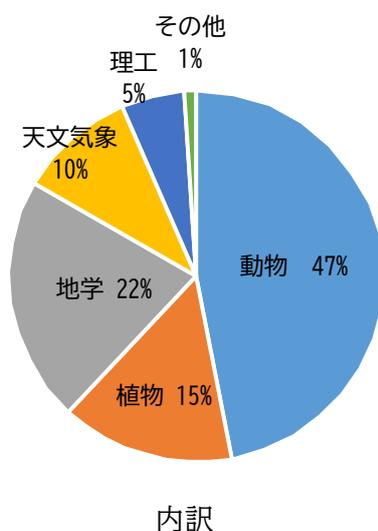
行事タイトル数 : 84

のべ開催日数 : 227日

参加者総数 : 12,956人

・とやまの自然探検	3回
・サイエンスライブ（土日休）	1日2回（のべ105日）
・科学教室	5回
・星空観察会（毎週土曜日の夜）・特別観察会	55回
・ボランティアによるイベント	1回
・自由研究のすすめかた相談会	9日
・標本の名前を調べる会及びまとめかた相談会	1日
・夏休みクイズラリー	21日
・サイエンスライブまつり	1日
・サイエンス・ラボ オープニングイベント	2日
・他機関・団体との共同イベント	12件

(2) レファレンス（科学の質問への回答） 総数 557件



(3) 出版物発行

普及雑誌「とやまと自然」	4回 県内小・中学校、高校等に配付
リーフレット「とやまサイエンストピックス」	6回 市内小・中学校等に配付
「星空だより」	12回 市内小・中学校等に配付
資料「学校で博物館を利用しよう！」	1回 市内小学校に配付
	館の案内と共に来館校に事前送付

(4) 学校による博物館の利用

「教員のための博物館の日」令和6年8月1日（木）実施

(5) オンラインによる学芸員の授業参加

長岡小学校6年生 令和6年9月12日（木）

芝園小学校5年生 令和7年1月24日（金）

6 プラネタリウム投影事業（館報 P.38-）

プラネタリウム観覧者数 77,095 人（全入館者数の 67%）

・一般投影	季節の星座解説と映像番組
・幼児向け投影（園児を対象）	6～7月
・学習投影（主に小4児童対象）	9～11月
・特別投影・特別イベント	24回

主な特別イベント

「スペシャルトークショー「まだ見ぬ宇宙へ」～上坂監督の描く宇宙～」

プラネタリウム番組「まだ見ぬ宇宙へ」に関連し、制作に携わった上坂監督の講演会を行った。

「スペシャルトークショー小説×科学 作家・伊与原新さんの世界 in プラネタリウム」

富山ゆかりの小説家、伊与原 新氏を招き、富山大学での研究者時代から小説家になるまでの経緯、科学的な事実を小説に組み入れていく方法などを話していただいた。

※富山市民文化事業団主催 プラネライブを2回実施。

「尾崎裕哉 Starry Night Concert」

「原田郁子 Live in プラネタリウム ～いまここ～」

7 恐竜化石事業（館報 P.44-）

普及行事「夏休み恐竜探検隊」を8月21日（水）、22日（木）に実施。参加人数38人。

8 情報・広報事業（館報 P.45-）

昨年度更新した情報システムは安定稼働し、博物館活動で広く活用されている。ウェブサイトの表示回数（ページビュー数）が増えた状態を維持した（日平均でR6年度2,998、R5年度2,999、R4年度2,733）。

9 他機関への協力（館報 P.49-）

全国プラネタリウム研修会2024・富山の開催。
職場体験学習「14歳の挑戦」およびインターンシップの受け入れ。
博物館実習10人。

10 ボランティア事業（館報 P.55-）

登録ボランティア87人。
主に野外行事や星空観察会で活動していただいた。また、グループ活動の「泥団子倶楽部」、「地球をめくろう」の会、「なんでも工作クラブ」が活発に行われ、ボランティア企画の読み聞かせの活動を行った。

11 「ジュニア科学賞・とやま」事業（館報 P.57-、パンフレット）

第22回「ジュニア科学賞・とやま」の選考および表彰を実施した。

12 科学博物館整備事業（館報 P.58-、科学博物館展示更新計画概要版）

「富山市科学博物館展示更新計画」に基づく展示更新計画の第1期として、「サイエンス・ラボ」を整備した。サイエンス・ラボは、実験、観察イベントやミニ企画展等に使用し、市民とのサイエンスコミュニケーションを深めることを目的に、1階休憩室の隣にあった工作教室を全面改装した。

（サイエンス・ラボでの活動実績は別紙参照）

13 富山市科学博物館友の会 (館報 P.59-)

会員数(令和6年12月末) 一般会員 95人 家族会員 130人
賛助会員 5口

科学教室8回、野外教室2回、バスツアー1回、スペシャルデー1回、会報発行7回

14 アンケート調査結果 (館報 P.61-)

プラネタリウム幼児向け投影参加団体アンケートの実施

プラネタリウム学習投影参加校アンケートの実施

「サイエンス・ラボ」の目的とこれまでの活動実績

1 「サイエンス・ラボ」整備の目的

市民と学芸員、研究者とのサイエンスコミュニケーションをより深めるため、サイエンスライブをはじめ、実験、観察イベントをより効果的に実施できる設備を備えた「サイエンス・ラボ」を整備した。

2 整備による効果と成果

【効果】

- 耐薬品性の床や大型モニター等の活用によって、これまでできなかった実験や解説、体験性のある演示ができるようになり、解説等の内容と質が向上した。(例：化学発光実験、砂鉄で遊ぶ、花の拡大観察)
- 演示が見やすくなり、また座って観覧できるようになったことで、イベントに集中しやすくなり、演者との対話もしやすくなった。
- イベントのPRがしやすくなり、市民の来館の動機付けとなり、科学にふれる機会への期待感を上げることができた。
- 専用空間での実施を館内アナウンスすることによって、イベントへの参加意欲を上げやすくなった。

【成果】

- ・サイエンスライブ（令和7年3月下旬～6月末にサイエンス・ラボで実施）の1回あたり平均観覧者数は去年の22人から36人に、約1.6倍増加した。
- ・観覧者と演者の会話や、観覧者からの質問が増えた。

3 これまでの活動実績

(1) サイエンス・ラボ オープン時

令和7年3月22日（土）、23日（日）にオープニングイベント（10タイトル）を開催した。



「世界一かんたんブーメラン」



「化学発光～いろいろな色～」

(2) オープニングイベント以降（現在まで）

①土・日・祝休日

サイエンスライブ、科学教室、友の会イベント等を開催。

②平日（使用予定のない日）

観覧者が体験などをする場（動物はく製を観察しての「動物ぬりえ」等）に使用。



サイエンスライブ
「化学反応で風船をふくらませよう」



サイエンスライブ
「富山のクワガタ」



科学教室「親子で挑戦！
ロボットプログラミング教室」



「動物ぬりえ」